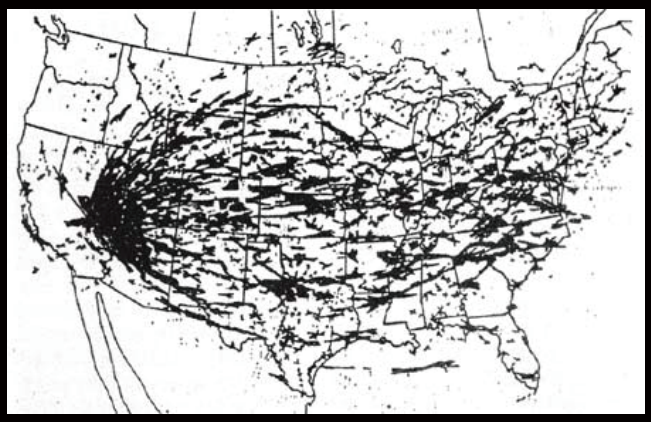
19年にわたる独自取材にもとづく、渾身のドキュメンタリー

放射線を浴びたX年後

サイレント フォールアウト

- 全米の放射能汚染のことをアメリカの人たちはほとんど知らない。
- 私たちを襲ったのは政府が作った核爆弾だったのです。
- 子供たちの体内のストロンチウム90の量が30倍に増えました。



乳歯が語る アメリカ大陸汚染

ハカルワカル広場 映画会

2024年 3月3日（日）

開場 12:30　開演 13:00

「上映後トークセッションがあります」

北野市民センター８階ホール
前売、当日共に 1,000 円

（障がいのある方、および高校生以下は無料）

チケットの申し込み：
電話、メールでハカルワカル広場へ（裏面参照）

「見て」「聞いて」「感じて」自分を守る。家族を守る。

ハカルワカル広場 映画会 開催

第２８回

ドキュメンタリー映画監督の伊東英朗によるシリーズ映画「放射線を浴びたX年後」第3弾。1950年代から60年代にかけて、アメリカネバダ州で実施された核実験によるアメリカ大陸の放射能汚染を追った。本作は、子どもを被曝から守るために女性たちが始めた「乳歯調査」を中心に取材。4000ページを超える文書と、2022年夏に米国内の被曝者、研究者ら30人に行ったインタビューをもとに、今も続く放射能汚染の現実を伝える。［放映時間/83分］

［監督メッセージ］

太平洋核実験による被曝事件の取材を始めたのは、2004年。アメリカ原子力委員会の機密文書や日本政府の文書などを入手し、日本列島の放射能汚染、アメリカ大陸の放射能汚染を知りました。自分を含め、多くの人が知らない現実に打ちのめされると共に、次々と亡くなっていく証言者を目の当たりにし、以降「いま、伝えなくては」と、証言と資料に突き動かされるように、独自調査を続けてきました。

また、アメリカ国内で「放射線を浴びたX年後」「放射線を浴びたX年後Ⅱ」を上映した際、核兵器の開発過程でアメリカ大陸全域が放射能に汚染していることを、アメリカの人たちがまったく知らないことに驚きました。

伝えなければいけない、伝え続けなければならない。深まる使命感を胸に、核実験に関わり被曝した元軍人を取材するため、2020年、イギリスを訪ねました。取材を重ねると、20歳前後の若者だった彼らの多くが亡くなっていた事実を知りました。

さらに2022年6月から8月、大陸汚染したアメリカを取材。60年前、核実験によるアメリカ大陸の放射能汚染を実証しようとしたのは、女性たちです。子どもの命を守りたい彼女たちの思いと行動が、ケネディ大統領を動かしました。この映画が、日本の未来を考える上でひとつの気づきになることを、そしてアメリカの人たちが事実を知るきっかけになることを、願っています。

伊東英朗　HIDEAKI　ITO
ドキュメンタリー映画監督／テレビディレクター
1960年愛媛県生まれ。テレビ局ディレクターを経て、2021年に独立。2004年、太平洋核実験によって日本のマグロ漁師が被曝した事実に出会い、映像化。映画「放射線を浴びたX年後」「放射線を浴びたX年後Ⅱ」を制作。芸術選奨文部科学大臣賞、日本民間放送連盟賞、ギャラクシー賞、日本記者クラブ賞特別賞など受賞多数。

ハカルワカル広場は維持会員の会費とボランティアで運営されています。

八王子市民放射能測定室
ハカルワカル広場
〒192-0053 東京都八王子市八幡町 5-11 八中ビル 2F
お電話問合せ 042-686-0820
HP: https://hachisoku.org メール：hachisoku@gmail.com
【開 室】 火曜日～土曜日：10 時～ 12 時

ボランティア、維持会員募集中！
お問い合わせはハカルワカル広場まで

寄付も大歓迎です！
ゆうちょ銀行　00180-8-290904（八王子市民放射能測定室）
他行からの振込は　018-0224460（八王子市民放射能測定室）

ハカルワカル広場　案内地図